

---

領域名：母性保健看護・助産

報告者：比嘉 麻巳

---

教育及び実践の課題

---

妊娠糖尿病（Gestational Diabetes Mellitus；GDM，以下 GDM とする）とは、妊娠中にはじめて発見され、糖尿病に至っていない糖代謝異常のことである。妊娠前に診断された糖尿病や”妊娠中の明らかな糖尿病（overt diabetes in pregnancy）”は含めない。また、メタボリックシンドローム（以下、メタボとする）は糖尿病の素因条件である。多くの研究でメタボの人は糖尿病発症リスクが増大することを実証している。さらに、GDM 既往女性は、既往がない女性と比べ、糖尿病の発症リスクが7倍以上高いと言われている。GDM 既往女性が産後にメタボ状態であると、将来、糖尿病の発症が予測されることが下記参考文献で示された。よって、GDM の妊産褥婦（特にメタボの女性）に対する産後の食事・活動の改善をはかる積極的な保健指導が看護者に求められる。

---

活用した論文の概要

---

Cho ら（2016）は GDM 既往のある女性は、産後早期の期間中にメタボが存在すると糖尿病の発症に有意な影響を与えることを示した。年齢、BMI、糖尿病の家族歴、身体活動と妊娠関連および代謝指標においてメタボは独立して糖尿病と関連していた。メタボの更なるリスクを考えると GDM 既往のある女性で産後早期にメタボと診断された女性は糖尿病の発症予防または遅延させるための介入について助言を受けるべきである。

---

教育及び実践への活用

---

GDM は、ハイリスク妊産褥婦の講義（周産期保健看護II）や基礎助産学（助産の科目）の講義で、取り上げている。GDM 既往女性は将来、糖尿病の発症リスクが高いということは以前から知られており（教科書に記載されている）、講義が行われている。今回、本文献によって GDM 既往女性が産後メタボ状態であると将来、糖尿病発症リスクが高く、糖尿病発症が予測されることが示された。そのため、GDM の妊産褥婦（特にメタボの女性）に対し、産後の食事・活動を改善できるよう看護者は積極的に保健指導等を行わなければならないことを講義の中で取り入れていった。また、周産期保健看護演習、周産期保健看護実習II、助産実習において、産後の女性への保健指導に関する学習内容に、GDM 既往女性の糖尿病のリスクを加え、産褥期のみでなく、長期的に女性の健康を考える（予測する）学習を取り入れている。母乳育児が、産後の子宮復古や母子の愛着形成によいという学習内容に加えて、母親の将来の糖尿病や心血管疾患リスクを減少させること（母性のテキストに記載がある）を理解しやすいよう、GDM 既往女性との関連性も説明して、学習効果を高める工夫をしている。

---

参考文献

---

Nam H.Cho, Chang Ho Ahn, et al. (2016) . Metabolic syndrome independently predicts future diabetes in women with a history of gestational diabetes mellitus. Medicine, 95(35), e4582.

---